＜お知らせ＞

まちづくりシンポジウム２０１０
～空港を活かしたまちづくり～

■まちづくりシンポジウムの概要

人口減少や超高齢化の進展、都市間競争の激化など都市を巡る環境が大きく変化するなか、これからの魅力あるまちづくりについて、県民の皆さまと一緒に考えていくことを目的に、平成２３年１月１５日（土）、小美玉市の四季文化館「みの～れ」において「空港を活かしたまちづくり」をテーマとして「まちづくりシンポジウム２０１０」を開催しました。

シンポジウムは２部構成となっており、早稲田大学アジア研究機構教授の戸崎肇氏による「茨城空港の戦略的展開」と題した基調講演に続いて、地域計画や観光の専門家などをパネリストに迎え、パネルディスカッションが行われました。

また、まちづくりに多大な貢献があった団体などを表彰する「茨城県うるおいのあるまちづくり顕彰事業」の表彰式も行われました。

当日は、県内各地から、約３００名にご来場いただき、参加者からは「茨城空港への関心が低かったが、今回のシンポジウムに参加して意識が変わった」、「県、市、市民団体が一体となってまちづくりを進める必要がある」などの感想が寄せられました。

■茨城県うるおいのあるまちづくり顕彰事業表彰式

「茨城県うるおいのあるまちづくり顕彰事業」は、周囲の景観に配慮した建築物や優れた住環境の整備、各種まちづくり事業に貢献された団体などを「まちづくりグリーンリボン賞」として、また景観に配慮した屋外広告物を設置した団体などを「まちづくりグッドサイン賞」として表彰しています。

平成２２年度は、「まちづくりグリーンリボン賞」として４件が表彰されました。

まちづくりグリーンリボン賞

●市とのパートナーシップ事業
「池の川弁天池公園の整備」
～地域の自然景観を活かした公園整備への取組み～
受賞者：池の川弁天池を復元する会
　　日立市

●古河市立総和中学校改築事業
～生徒と一緒に考える学校づくり～
受賞者：古河市

●観光交流拠点施設「好文 cafe」の整備
～自然と歴史的資源を活用した賑わいの創出～
受賞者：水戸市

●映画づくりから始まる地域づくり
～地域づくりと連動した地域活性化プロジェクト～
受賞者：水戸藩開藩四百年記念
　　「桜田門外ノ変」映画化支援の会

基調講演

「茨城空港の戦略的展開～その可能性の追求～」

早稲田大学アジア研究機構 教授 戸崎　肇

■はじめに

全国各地で「まちづくり」が声高に叫ばれておりますが、その決定的なツールがないところも少なくありません。しかし、茨城県には、開港から８ケ月で約７０万人が訪れる魅力的な空港があり、まちづくりを行っていくうえでは非常に優位な状況にあります。

■航空政策や航空業界の変化

一昨年に民主党政権が誕生し、航空政策と空港政策の自由化が進められ、いろいろなことができるようになりました。これはチャンスでもあり危機でもあります。地方空港はどうやって生き延びるかが喫緊の課題となっています。これからは空港の集約化が行われます。

また、航空会社は、日本航空の経営破たんを契機に採算性の悪い路線を自由に切って採算性の高い路線に集約できるようになりました。

さらに、春秋航空等のLCC（格安航空会社）も入ってきています。LCCは、厳しい経営環境の中で経営判断を下して、コストが安く使い勝手の良い空港に常に動いていきます。

これからは、航空会社に全面的に頼る空港経営は厳しいです。

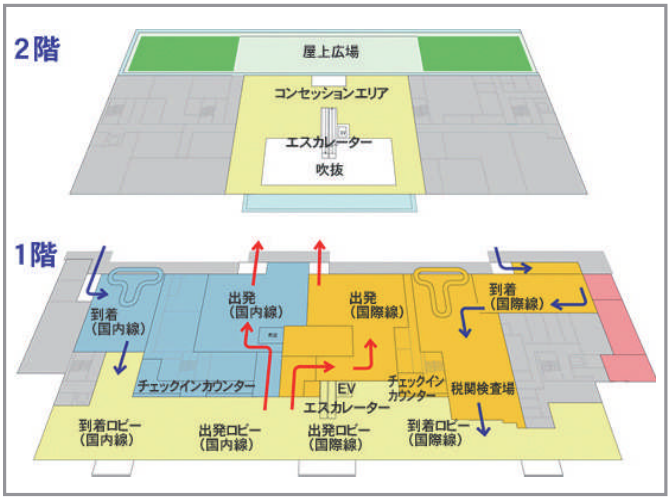
■首都圏空港の変化

昨年、羽田空港や成田空港は新しいステージに入りました。羽田空港は、第４滑走路が供用開始し、新国際ターミナルがオープンしました。また、成田空港は、運用時間が拡大し、発着枠が増大しました。いろいろと問題点は残っていますが、首都圏空港の取組みは注目していく必要があります。

■茨城空港の現状

茨城空港は、東京から近く、非常に利便性の高い空港です。広い無料駐車場や飛行機に乗るまでの時間が短いことは大きなメリットです。航空会社からも非常に評判が良いです。また、周辺各県に魅力のある観光地が多いため、ツアーも組みやすいです。

ターミナルビルと 1300 台の無料駐車場



コンパクトで効率的なターミナルビル

しかし、課題もあります。

１点目は、茨城空港へのアクセスです。北関東道等の高速道路ネットワークは着実に整備されつつありますが、茨城空港へのアクセスをもっと整備すれば、利

茨城空港周辺の高速道路ネットワーク

平成 22 年 3 月に供用開始した東関東道「茨城空港北 IC」

用者はさらに増えると思います。

また、最近はリムジンバスが利便性の観点から見直されています。車を使ってどのように利用者を集めるかが今後の取組み課題です。

２点目は、空港周辺の整備です。空港を中心としたまちづくりをどのように行っていくかということです。地方空港は、空港周辺に何もないということが多いです。例えば、空港が地域の商業施設の核となり、飛行機の利用者以外の方々にも楽しんでいただく、お金を使っていただくという発想も必要です。海外の事例ですが、シンガポール空港は、総合コンプレックスのような発想で２４時間遊べる空港になっています。

３点目は、日本の空港の共通課題ですが、情報の発信です。外国人に対して日本人の発想でしか情報を発信していないから、彼らの欲しい本当の情報が手に入らないのです。

■茨城空港の今後の取組み

航空業界は劇的に変化しています。航空なくして空港はありえないので、その動きをシビアに見なければなりません。また、羽田空港や成田空港も変化しており、単なる首都圏第３空港というだけでは戦えなくなってきます。

今後は、茨城空港をどのように位置づけるかが重要です。

そのためには、自らの強みを総合的に評価し、どのように情報発信していくのか、どのようなメディアを通じて展開していくかが大切です。昨年は、中国で札幌を舞台にした映画が大評判となり、北海道に行くことがステータスになりました。このようなメディアミックスも有効な手法の一つです。

また、第３者的な視点も必要です。その地域の人が誇る自然や歴史、伝統は、他の地域の人からすれば「ワン・オブ・ゼム」にすぎません。どの国のどの年齢層の人をターゲットにするかなど、きめ細やかなマーケティング戦略が要求されます。しかしながら、日本においては、科学的な分析が行われず、経験的に行われていることが多いので遅れをとっているところがあります。

茨城空港は、多くの人に利用されていることから、その附帯収入を高め、経済効果を周辺地域に波及させていくことも必要です。エアポートビジネスで高い収益を得ることは、今や世界のトレンドです。航空利用者より見学者が多い茨城空港は、その潮流にあっていますが、今後はどのような仕組みで地域にフィードバックするかが課題です。そのためには、まちづくりをきちんと考えていかなければならないと思います。

ターミナルビル内で開催された「韓国フェア」

パネルディスカッション

「空港を活かしたまちづくり」

コーディネーター

早稲田大学アジア研究機構 教授　戸崎　肇

パネリスト

㈱常陽産業研究所 フェロー　久保田時治

㈱JTB 関東 水戸ブロック総括支店長　市川　友英

小美玉市商工会 青年部長　根本　守

小美玉市 副市長　鶴町　和夫

■はじめに

○戸崎氏

基調講演は概括的な内容でしたので、パネルディスカッションでは、茨城空港を活かしたまちづくりについて、具体的な議論を展開していきたいと思います。

○久保田氏

㈱常陽産業研究所の久保田です。当社では、学際領域や産業領域を中心とした課題解決型の調査やコンサルティング、プランニングを行っています。

最初に、現在のマクロ面からみたまちづくりの課題について触れたいと思います。

１点目は、経済の停滞です。今後は、以前のような高い経済成長は見込めません。今までつくったものを「アセット（財産、資産）」として活用していくが大事になります。２点目は、財政難です。公共が何か新しいものをつくることが難しくなってきています。このため、民間活力や市民活力を誘導していく必要があります。３点目は、人口構造の変化です。総人口が減少する一方、高齢者が増加し生産年齢人口（１５～６４歳）と呼ばれる消費人口が減少しています。このため、外部からの交流人口を増やしていくことが求められます。また、その誘客装置として茨城空港をどう活用していくのかについて考えていくことが重要です。

○市川氏

㈱JTB 関東の市川です。私は旅行をしているお客様の視点、あるいは旅行、観光の観点から茨城空港を考えたいと思います。

現在、旅行会社は海外や京都等に行く「発地型」の旅行をビジネスモデルとしていますが、今後は、こちらに来ていただく「着地型」のビジネスを展開していきたいと思っています。

私は、観光振興はお金を落とさせるシステムをつくることだと思っています。「発地型」は地元にお金が落ちませんが、「着地型」は地元にお金が落ちてその地域が潤っていきます。茨城空港は、「着地型」の施設として考えるべきだと思います。

○根本氏

小美玉市商工会青年部の根本です。

旧小川町は、江戸時代に水戸藩の御用河岸で「水運のまち」として発展しましたが、小美玉市は今後「空港のまち」として発展していきたいと思っています。

小美玉市商工会は、行方市や鉾田市の商工会と協力して「スカイ・アリーナ」を空港内に開設し、特産品の販売や観光案内等を行っています。また、「空の市」等の各種イベントを実施しています。

空港公園で開催された「空の市」

○鶴町氏

小美玉市副市長の鶴町です。小美玉市は、平成 18 年３月に小川町、美野里町、玉里村が合併し、人口約５万３千人の新しい市としてスタートしました。

小美玉市は茨城県のほぼ中央に位置し、周辺には常陸那珂港や鹿島港等があります。高速道路網が整備され、茨城空港が昨年３月に開港しました。

市の基幹産業は農業であり、酪農や養鶏は県内１位です。野菜や花き類も盛んです。

また、工業については、市内工業団地に約５０社の優良な企業が進出しています。

最後に、霞ヶ浦から望む筑波山の景観は、茨城百景に選ばれています。

■茨城空港を活かしたまちづくり

○戸崎氏

次に、茨城空港を活かしたまちづくりのあり方は具体的にどのようなことが考えられるのか、また、その可能性と課題等について、ご発言いただきたいと思います。

○久保田氏

茨城空港は、首都圏における「セカンダリー空港」としての位置づけが明らかになってきました。羽田空港や成田空港は「プライマリー（基幹）空港」です。「セカンダリー空港」は、「プライマリー空港」を補完し、LCC や小型機材、チャーター便が就航する空港です。

首都圏に３つも空港が必要なのかという議論が開港前にありました。首都圏には約３６００万人が住んでいますが、空港が３つ、滑走路は７本です。ニューヨーク都市圏は、人口が首都圏の半分で滑走路は９本、ロンドン都市圏は、人口が首都圏の４分の１で滑走路が８本です。茨城空港は無駄な空港ではなく、首都圏が必要とする需要に対応する貴重な空港なのです。

次に、地域振興やまちづくりを考える際には、「アセット」としての茨城空港の情報価値を高めることが重要になります。そのためには、３つの要素が必要であり、それは、「希少性」と「話題性」、「物語性」です。

茨城空港の「希少性」は、自衛隊機と民航機を両方見られる首都圏唯一の空港です。民航機の出発が終わった後もお客さんが空港に残っており、自衛隊機の音が聞こえると屋上広場に一斉に集まり自衛隊機を観察しています。

ターミナルビルの屋上広場

また、「話題性」としては、空港利用客数が注目です。茨城空港には８ケ月で約７０万人が訪れていますが、見学客と送迎客が搭乗客の５倍もあり、世界でも珍しい存在と言えます。

さらに、７０万人を超える県内の観光施設は、筑波山や国営ひたち海浜公園、アクアワールド大洗等であり、茨城空港はそれらに次ぐ観光集客施設になっています。人が集まればいろいろな可能性が生まれ、まち育てや地域活性化につなげていけるとも思います。

○市川氏

優れた観光資源には幾つかのキーワードがあります。１点目は、「本物感があること」です。本物は飽きませんから持続性があります。２点目は、「オンリーワン」です。ここにしかないものです。３点目は、「ナンバーワン」です。日本一、関東一、あるいは１００キロ圏で一番でも良いです。４点目は、「付加価値が高いこと」です。果物に例えるとサクランボやメロンは高級感があります。だから売れるのです。５点目は、「女性に支持されること」です。女性は男性に比べて情報の発信力が高いのです。６点目は、「楽しいこと」です。東京ディズニーランドがその典型です。７点目は、「サプライズがあること」、最後は、「感動があること」です。

次に、茨城県の観光資源の魅力は大きくわけて２つあると思います。１点目は、「隠れた本物」があることです。例えば、桜川市の山桜は、江戸時代に「西の吉野、東の桜川」と言われていました。また、結城市の山川不動尊は、７００年前の鎌倉時代から、毎月２８日に縁日をやっています。２点目は、首都圏からの圧倒的な「利便性」です。

一方、課題もあります。しかし、課題のなかには改善できるものが３つあります。１点目は、「観光に対する意識の低さ」です。観光を重要な産業としているまちは熱心ですが、総じて意識が低いと思っています。２点目は、「PR 下手」です。PR にお金をかけません。そのため、PR の引き出しが少ないのです。弊社が PR を行う時は３０ぐらいの方法で行います。３点目は、「おもてなしの心が少し足りないこと」です。

○根本氏

小美玉市商工会では、茨城空港の周辺７市町で構成する「セブンネット」の協力を得て、「空の市」を茨城空港で開催しています。また、昨年の１０月には、「おみたま産業まつり」を茨城空港に隣接する空港公園で開催し、約１万人が訪れました。さらに、小美玉市内の各店舗が特産品を販売する「小美玉マルシェ」を空港内で行っており、出店者からは、店舗数をもっと多くしていこう、もっと利用していただいて外に PR していこうという声があがっています。

ターミナルビル内で開催している「小美玉マルシェ」

○鶴町氏

茨城空港に隣接する百里基地では、毎年約10万人が訪れる「百里基地航空祭」が開催されています。

また、根本さんからお話しがあった「空の市」等のイベント等により、多くの皆様が茨城空港に来ていますが、地域との融合はまだ少ないのかなと思っています。空港周辺には観光客をもてなす施設が少なく、空港だけを利用、見学して帰る方が多数を占めています。このため、市では茨城空港「空の駅」等の地域振興に寄与する新たな交流空間の整備構想を策定しているところです。

百里基地で開催している「航空祭」

○久保田氏

茨城空港の希少性や話題性から、面白い物語を組み立てて提供することが大切です。

例えば、「空の駅」のような機能を空港ロビーや駐車場、空港公園等に暫定的な施設として設け、人気を博してきたら恒常的な施設につくり変えていくことができれば、地域の再生や活性化につながったという物語展開が可能になります。また、茨城の歴史的・自然的資源に加え、茨城空港を活かした映画やドラマを制作することも面白い物語につながると思います。

○市川氏

今後の地域連携と首都圏を含めた交流拡大のためには、周辺地域と一体感を持つことが大切です。例えば、中国の人からすれば、茨城県も栃木県も群馬県も一緒です。１つの地域として物事を考えていく必要があります。そして、お互いが交流を深めたうえで、茨城空港のコンテンツを少しずつでも使っていただくことです。また、最初は、首都圏の方をターゲットにするのではなく、茨城県近郊の方を中心にPRを行います。マーケットリサーチの結果、茨城県に来る方のうち、このエリアの方々が７５％です。PRも選択と集中が大切です。

○根本氏

地元の人がどのように茨城空港を利用するかというのも大切な視点だと思います。小美玉市の商店で買い物をしたらポイントがたまり、茨城空港を利用した旅行に使えるカードや地元でしか使えない商品券を導入したいと考えています。空港に一番近い小美玉市民が茨城県の市町村のなかで一番良かったという思いになるような活動をして行きたいと思います。

○鶴町氏

小美玉市としては、茨城空港のにぎわいを大いに活用し、空港利用者が「また利用したい」と思えるような「おもてなしの心」を育み、併せて飛行機を利用しない人たちも空港を訪れる取組みを行ってまいります。また、小美玉市の地場産業、観光資源、歴史などの地域資源を有効に活用しながら、地域振興、地域活性化に繋がるまちづくりを目指していきたいと思います。

■最後に

○戸崎氏

様々な観点から意見や提案が出ましたが、あえて１つにまとめる必要はないと思います。ぜひこの中から１つでも２つでも持続的に考えていただきたいと思います。

私から申し上げたいのは、観光政策は、地域別にオーダーメードであり、どこにでもあてはまるようなものはありません。

また、今回のような議論がシンポジウムのための一過性のものになるのが非常に問題であって、ここで提案されたものがシンポジウムごとに重層化され、持続的な政策として活かされていくことが大切です。政策には、いろいろな関心が絡まりますので、誰もが納得できるようなものはあり得ません。このため、それをまとめあげるリーダーシップや地元住民の真剣な取組みが必要になると考えています。

今日は、いろいろな種が植えられたと思いますので、来年、再来年に向けて、持続的な政策として結実していくことを期待します。